

滋賀県文化審議会次世代育成部会第 14 回会議 議事概要

- 1. 日 時            令和元年 11 月 22 日（金）10 時 00 分～11 時 35 分
  
- 2. 場 所            滋賀県庁北新館 5 階 5-E 会議室
  
- 3. 出席者          委 員：岡田委員（部会長）、磯崎委員、大橋委員、中尾委員、林委員（5 名出席）  
事務局：村田管理監、小林課長、西川主幹ほか
  
- 4. 議 題            (1) 文化振興基本方針（第 2 次）に基づく施策の成果と課題について  
                      (2) その他
  
- 5. 議事録          以下のとおり

委員	<p><u>議題（1）文化振興基本方針（第 2 次）に基づく施策の成果と課題について</u></p> <p>結局（成果が）あったのか、イマイチなのかというのが、何となく伝わってこない。結論ありきの総括にさせていただいたほうがいいのではないか。</p>
委員	<p>計画は通常、長期と中期と短期と 3 つに分けられ、長期は大体 10 年、中期は 3 年から 5 年、短期は 1 年ということが多い。この基本方針は 5 年の計画であり、中期計画と言える。</p> <p>資料を見ると、5 年をブレイクダウンして、1 年ごとでまとめているので、基本計画はまだ終了しておらず、現在我々が議論するのは短期の、主に 4 年目のことを議論して、来年中長期計画が終わった時点で総括をするということか。</p> <p>日本語だと <b>output</b> は結果と訳すことが多く、<b>outcome</b> は成果と訳すことが多いと思うが、この資料は成果ではなくて結果について記されている。今後 <b>outcome</b>（成果）をどう測るかというのが重要な議論になってくる。</p> <p>成果と結果を測るのは、通常は「評価」と言われるわけだが、それは非常に難しく、私の現在の理解ではベストな方法はなく、みな試行錯誤しながらやっているようである。主にこの後、中期計画、基本方針第 2 次が終わった時に、どう結果と成果を評価するかということが重要になる。</p>
事務局	<p>御指摘いただいたところもごもっともなところで、総括のタイミングは、本来はこの計画期間が終了した時点で、しっかりと評価していくというのがあるべき姿だと思っており、来年度までの計画、指針であるので、最終的にはそういった段階で</p>

	<p>成果をしっかりともう1回見きわめていくということになると思う。</p> <p>一方で、計画期間が来年で切れるので、それまでに改定という作業が必要になる。実際には来年度改定を行って、翌年度から新しい方針が始まる。改定作業に向け一定のタイミングで、取組状況を、成果の評価までいかにしても、取組状況を確認する必要があり、今回、部会で次世代の施策について議論いただきたい。</p> <p>今の指針の中での評価指標というのが、いわゆる結果指標をはかるものばかりになっており、その取り組み状況がどの程度進捗しているかというところを御確認いただき、今後取組をさらに進めていくにあたってどういう課題があって、どういう方向性で、もう少し考えたほうが良いというようなところをアドバイスいただければ、次の改定に向けて生かしていけるかと考えている。</p>
部会長	<p>短期的な結果などとともに、中期的な問題やその成果について、その測定の問題についても結局は観点をさまざまに、出てくるということか。</p>
事務局	<p>総括というと大きな全体的な部分での御意見を想起しがちだが、具体的な取り組みも含め、当然方針の中にそういった具体の取り組みも展開をしていくので、そういったことも含めて御意見を賜りたい。</p>
委員	<p>湖北や湖西などに暮らしていると、びわ湖ホールとか近代美術館というのはなかなか縁の遠いところもあり、皆さんが考えてくださっているびわ湖ホールでの鑑賞事業や、アートマネジメントの講座が北のほうであるというのは、ありがたい取組だと感じている。</p> <p>この（重点施策の評価）指標が、文化ホールや美術館の場所であるということで、参加人数だったりという部分がある。家庭等、例えばその子供たちが体験する場所はさまざまあると思う。県が取り組んでいる事業の中でも、それぞれの学校に直接行ったり、地域でとり行っている事業というのも多々あると思うが、ホールからアーティストが行っているような事業と、その地域のアーティストなり、地域で活動されている人を支援するような取組というものの割合、どういった形でいま取り組まれているのかについて、何かわかるのであれば教えていただきたい。割合、もしくはどれだけの取り組みがあるのか。アウトリーチ的な部分のボリュームと、1人1行くものと、地域を盛り上げていこうというか、助成だったりとか、支援だったりというところ。</p>
事務局	<p>アウトリーチ事業としては、びわ湖ホールが声楽アンサンブルなどを学校に派遣する事業を行っており、また、県内のアーティストなどをオーディション形式で選び、びわ湖ホールで演奏会などの発表の機会を提供するという事業などを行っている。またその方々を、地域の福祉施設や病院等にアウトリーチとして演奏活動をしにといった事業を行っているという事例もある。</p>

委員	<p>ただ、できるだけその地域が偏らないように選んでいると思うが、具体的にどのぐらいの割合というのは持ち合わせていない。</p> <p>地域の活性化の支援策としては美の滋賀の取組で、地域の取り組みに対して、助成を行っている事業もある。できるだけ地域も考えて、採択をするようにしているが、今年度は、少し偏りがあり、長浜と大津の活動に支援をしている。</p> <p>重点施策3も、重点施策ということなので、文言を今直すとかそんな話ではないとは思いますが、審議会のほうでも出てきたと思うが、本物の文化に触れるという言葉がちょっと古いというか、そもそも本物の文化、偽物の文化があるのか。プロの、とか、ほかの言葉にすることは、どこかのタイミングではできないのか。重点施策になってしまっているのか、難しいのか。大きな項目に上がってきているので、難しいのかなとは思いますが、言葉として、アウトリーチとか次世代育成といったところで、本物というのは、今あまり使わないというか、古いような感覚がした。</p>
委員	<p>評価には定量評価と定性評価があり、それぞれ一長一短であるので、両方組み合わせる人が多いと思う。</p> <p>定量面を見ると、平成26年度が「現状」と書かれている。1年とんで平成28年、29年、30年のデータがある。今年（令和元年）のデータは当然なく、抜けているというのは理解できる。令和2年度分は、目標が書いてある。毎年データがあるところと1年空いているところがあるのが、資料の見方がわからない。</p> <p>平成26年度というのは前の基本方針中のデータと思うが、「現状」となっているのはどういうことか。平成30年度が現状というのならわかるのだが。</p>
事務局	<p>今の時点で考えると、適切な表現でなくなっているが、この現状というのは今の方針を策定した時点の現状という表現で、策定時点。27年度が飛んでいるのは28年度からの方針なので、27年度は記載していない。令和元年度は今取組中で、記載していない。</p>
委員	<p>数字を見てみると、大体横ばいである。多少でこぼこはあるが。ところが、令和2年度の目標設定でこれまで毎年行っていたとすると、毎年、目標を下回っていることになる。では、目標を下回った原因は何かとか、そもそもの目標設定が適切だったのかということが後から議論すべき点ではないか。</p>
委員	<p>こういう数値設定をした時点では議論してこれがいいということで決めたと思うが、これだったら、数値そのものの問題を討議しないといけなのではなか。要は、これが上がったか下がったかに対して、評価で適切であったかどうかということが、問題になるような気がする。</p>

事務局	<p>目標がチャレンジングな目標になっているものと、あと一定積み上げで計画的にはこれぐらいであろうという到達可能な目標と両方、混在しているのも確かである。一定その事業量の目標になっているのは、件数の確保であったり、各取り組み団体の確保で一定達成できているというのと、実施側の状況だけではなかなか達成できない目標があり、それが思うような結果が上がっていない。</p> <p>例えばホールで芸術鑑賞していただいた小中学生の数を増やそうといろいろ取り組みをやっているが、学校教育側の事情や地域の特性など、十分に成果が出ていない部分がある。</p> <p>どこに課題があってどう解決していくかっていうのを、毎年、しっかりと見直しながら事業をしていく必要はあったと思う。できる取り組みをやってきたつもりであるが、成果として十分に上がっていないところがあるというのは事実である。</p>
委員	<p>先ほど成果と結果という話があり、数字で増えたとか、すごくたくさんの方が参加したというのは、目に見えてわかって良いが、結局私たちが求めているものは成果であって、これをやったから結果としてこの数字になった、ひいては、地域の文化芸術の活性化がこうなったという、こうなった、の部分、目に見えていない。</p> <p>例えば、子供たちが文化芸術に触れ、その結果どうなったのか、若者支援で、国民文化祭、県内文化祭に参加した、それによって、若者からこういう活動が生まれてきたとか、新進気鋭アーティストが生まれたとか、具体的な成果というのを見たい。もちろんされることはすごく素晴らしいことで、有意義なことなのだが、この次世代アートフェスティバルを行ったことによって、新たな交流が生まれ、新しい団体が活動を始めたとか、例えばこういうことで、年間通して、公演が増えたという、目に見えた成果というものが知りたい。</p> <p>それがこの5年間の成果の部分で表れるのか、同じようにこの（評価指標の）数字だけ提示されて成果になるのか。</p>
事務局	<p>先ほど事例に挙げていただいた、次世代アートフェスティバルであるが、おっしゃるように、確かにその後アーティストがどのように活躍されているとか、全て後追いをできていないのが現状である。今年度9回目を迎え、そのあたりも一つの課題として、例えばアンケートをより強化して、満足度をさらに図っていくとか、事業の幅を広げていくようなことができれば、という思いはある。後追いについては、今後の課題にさせていただきたい。</p>
部会長	<p>短期的問題としては、議論をこの場で深めるのは難しい。その課題については、むしろ来年やるべきことではないのか。</p>
事務局	<p>一定、想起されるものは出していただき、さらに来年に発展させるということもあると思う。</p>

部会長	<p>こういったことに、よく立ち会うのだが、どうやってその成果を表現し、まとめて共有できるというのはすごく難しく、なかなか方法がない。次世代育成だから人材育成の課題についての取組の文化芸術分野ということになる。</p> <p>育成しようとしている人物像の具体性がない。どういう人物を育成しようとしているのかということが見えてこないというか、ばらばらとやっている。何のために何をやっているというものが何か見えてこない。だから、育成したい人物のイメージとか人物の能力とか活躍の仕方とかそういうもののイメージがあって、それに近くなって、この分野ではこういう成果で近くなっているとか、こういう人材を育成できていないとか、そこの育成ということに関する具体性がない感覚がある。でもそれは恐らく滋賀県だけではなくて、多分あまりどこでもできていないのかなという気はする。</p>
委員	<p>評価について、アウトリーチの研究をして、主に子供向けの研究をするときに、どこで成果を図るかということは、子供の声を細かく拾って行ってそれを分析するとか、そういうことに尽きると思う。かなり面倒な作業ではあるが。</p> <p>それと、プログラムの評価。プログラムをどういう内容で行って、それがどういう効果を狙っているのか、そしてそれがうまくいったのか、どのぐらい子供から反応がどうあったのかというのは、子供の反応とかそういうところから1個1個、拾っていくということを研究ではする。</p> <p>だから、この資料を見て何となく物足りないのは、数が書いてあるけれども、参加者人数はもちろん大事なことだが、どのぐらいの波及というか、この人たちがどう思っているのか、どう感じ取っているのかどんな成果があったのか、その声とか。ホールの子とか内容はすばらしいが、そういったプログラムの中身とかがあまり見えてこないの、見たいと思った。</p> <p>やりました、でも、何を言われているのか中身があんまり見えてないと、数だけを上げている。その成果というか、何をもちて成果としているのか、中身が見たいと思う。</p>
委員	<p>例えば、架空の消費者像を想定して行うものを、マーケティング分野ではペルソナと言う。よく用いられる既存の手法を応用することは可能である。</p> <p>架空の理想的な、育成された鑑賞者像とか、アートマネージャーとかを想定し、その目標に向かって、プログラムを組むことは可能と思う。</p>
部会長	<p>大学教育だと、まず、輩出する人物像を想定して、そこからカリキュラムを全部編成して、そこをPDCAで全てフィードバックして、そのカリキュラムが適正であるかどうか、成果のはかり方をどうするか、いわゆるPDCAのやり方だが、それはすごく当たり前のこと。こういうものにこれを当てはめてしまうとなかなかそれは難しい。</p>

委員	<p>大学教育では輩出すべき人物像を考えることもあって、それを他の分野だとペルソナという言い方をすることもある、ということである。</p> <p>いろいろな研究分野で実施されている手法を採り入れるということは可能であると思う。</p>
委員	<p>子供の3万人をまとめるのはとても無理だと思うが、間に教師が立っていると思うので、教師は大体子供がどういう感覚でとらえたのかというのを見ていると思う。そうすると数が大分減り、大人の客観的な思考も入り、教師とか間に立つコーディネーター的な人だとかそういう人の調査をすれば、もう少しぐっとやりやすくなるかもしれない。</p>
委員	<p>最初、滋賀県はものすごく文化に対して力を入れていて、人材育成とか具体的にやっていたらと思うと、各都道府県で同じようなことをやっている。</p> <p>しかも内容によっては、滋賀県よりも具体的に内容を絞り込んでいる。素人の文化と本物の文化はやっぱりレベルが違うなというのは、わかる。広く子供若者が本物の文化というと、イメージはよくわかるけど、具体的な数値目標なんかになったときに、今のように、それが適切かどうかという議論になってしまう。</p> <p>そうすると、例えば他府県では賞金を出してやるとか、具体的に細かく、絞り込んでいる。だから、タイトルは、重点施策3の大きいのであってもいいけれども、具体的施策は、ここの代表は、一つ、こんなもの、本県ではこれですよ、というような絞り方にしたら、確かにその指標が、重点施策3を、全部全体を網羅して代表する数値ではないかもしれないが、滋賀県としては、こんなことを若者育成でやるのだ、ということの数値を定められたらどうか。</p>
部会長	<p>その辺については、どこまでオーソライズや理解とか議論ができたかは存じ上げないが、びわ湖ホールを設立した時点で、既に舞台芸術でオペラというふうにも絞り込んでいるのではないかと。予算の書き方とかを考えても。だから、そういったところの施策が多い。</p>
事務局	<p>施策については、どこに重点に置くかというのを議論させていただいている。</p> <p>文化振興基本方針下、その計画期間に重点的にどう取り組むかっていうのを、定めてやっている。ただ、委員の御意見を伺っていて、それがしっかりできているかというのがこの場でちゃんと総括して言えないというのが、取り組みのほかり方に問題があったのかもしれない。そもそも文化とはどういう形で成果として把握するかというのは難しい側面があるので、そこも相まって今の形の結果で御判断をいただくような形になっているので、もう少し定性的にしっかりと表現できる部分があれば、もう少し議論もしてもらいやすかったのかもしれない。</p>

部会長	<p>基本方針の冊子 19 ページの、ここの施策はわかるが、我々は 3,4,5 の施策をやっているが、その前のページにより重要なことが書いてあり、基本目標というのがちゃんとある。恐らくこれが多分 1 番具体性のある、我々の到達地点なのだろうと思うが、そこに四つ書いてある伝統文化、生活文化、風景とかってという言葉がかなり強くやっぱり印象に残ってくる部分がある。</p> <p>現実的には、びわ湖ホールが存在から、舞台芸術やオペラ音楽等の施策が実質的には多いような気がするが、一方で目標というものは、伝統文化とか生活文化、滋賀ならではの琵琶湖の風土から発生する独自性のある文化といったものを大切にすることが 1 番大きな美の滋賀的なところとリンクすると思う。そこが 1 番滋賀のブランディングとか、出たところで大切な背骨になるのか、それともオペラ舞台芸術なのか、それがうまくつながっていくのか、そういったところの議論をなかなかする機会がなく、難しいところ。もし、伝統文化や生活文化ということを重視するというで間違いがないのであれば、重点施策 3 のところにも伝統文化、生活文化とか二回言葉が出てくるが、やっていることはどうしてもホールとか文化施設中心になるので、そこで芸術鑑賞したような人の数等がどうしても見えてくる気がする。その現地や現場にある文化とかそういったものと、どれだけそういったものに興味を持つ人あるいはそういったものを振興する人あるいはそれを支える人、三つに分けて、オペラやいわゆる芸術と言われるもの以外のところで伝統文化、生活文化を振興していく人材をどう育成できたのか、しようとしているのかということところが、全般的に弱いという気がする。そこを大切にしているような気がするが、実際この重点項目の中ではずっと消えていってしまう。結局、文化芸術のほうが優先されているような気がして、基本目的の順番からいくと伝統文化、生活文化をまず大切にするというところが滋賀県のポリシーの一つじゃないのかと思う。</p>
事務局	<p>現実の施策として、地域でそういう取組が起こるということを活活化させたり、そういうのをつないだりしている取組なり人材を育てたいという美の滋賀の取組などは、まさにそういった理念で進めている。またそれが十分に、ほかの施策に比べてバランスが、という部分はもう一度よく考えて、次の方針では、どういう形で表現してあげればいいのかということは考えていきたい。</p>
部会長	<p>伝統文化、生活文化とあと衣食住といったところの人材育成等はあまりでてこない感じがする。</p> <p>例えばコーディネーターにしる、衣食住の住をテーマにすれば、まちづくりとか、町並みとか景観といったものをクリエーションする人や、コーディネートする主要な人や、それは子供が興味を持つとか、当然それは必要になってくる。でも、そういうことはあまり見えてこない。本来の目的というところからいくと少し偏りがあるという気が全般的にする。</p> <p>あと、伝統文化、生活文化というときに、それもすごく漠然としている。リスト</p>

委員	<p>アップができていいのか。伝統文化、生活文化のこういうことについて滋賀県は、若手を育成し、クリエイションそれできる人間を育て、そしてそれを支援するコーディネーターを育てるといふ伝統文化、生活文化の人材育成の項目が見えないとか、非常に漠然とする。</p> <p>何のテーマについてそれをやろうとしているのかということが見えてこない。町並なのか、何なのか。衣食住いろいろあると思う。食にしたら、発酵文化とか、お酒とか何かいろいろある。だから、そういったところが具体性を感じないというのはもう来年改正できる問題ではないので、次の第三次計画に向けての話になる。</p> <p>湖北の田舎に住んでいると、本当に景色とかすばらしいと思うときはあるが、ふと子供たちに聞いてみると、やっぱり田舎で何もなくて、いつも何もない風景、当たり前前の食べ物というところで、気付かない。互換性がだんだん鈍ってしまう、若者は離れていってしまう。</p> <p>私たち文化芸術を担う人間が何をすべきなのかということ、その感性を磨いてあげて、外部からとても感性の鋭い方が来てくださって、いやあ、君たちの住んでいるところはすばらしいんだよと、これはいいんだよという、気付きを与えてくれる人材というのが、まさにこの文化芸術の人材になるのではないか。</p> <p>地域のすばらしさを気付かせてくれて、ここをもっと盛り上げていこうということを引き張ってくれて、このおもしろさがあるんだよということコーディネイトしてマネジメントしてくれるような人材というのが、本当に必要になってくる。ひいては文化芸術も、それによって感性を磨いて、自分たちの文化っていうのはすばらしいんだということに気付き、定住するとか、波及していく。そういったところに結びつけるような、人材育成というのが、目指すべき形かなと思う。</p>
部会長	<p>その重点施策4のところも若手芸術家「等」と書いてあり、恐らく「等」の中に入れていたという理屈にはなっているのだろうが、今のところ全然そういうのは見えてこない。</p> <p>そういったことも子どもが興味を持ち、そういう感性を身につけ、そして、それを引っ張っていけるようなクリエイションできるクリエイター、芸術家というふうなここに書いてあるが、クリエイションする、つくり出していける、そしてそれを支えるっていう、それは重点施策3、4、5がうまくこう順番ができていけるが、ジャンルの生活文化、伝統文化を我々のブランディングのために推進していくというのが、すごく弱いという印象がある。</p> <p>少なくともその成果指標から見てもなかなかそういうのは見えてこないし、実際の施策も見えづらい。ホールとか文化施設が計測の場になっているからというのが大きいのか。</p>
事務局	<p>これまでその文化をどこまでとらえるかというところで、行政の文化施策として</p>



<p>委員</p>	<p>施設内中心にやってきたのが結果的に多かった。</p> <p>ただ、生活文化なり地域のいろんな魅力を発信することで、文化のみならず、滋賀県全体の魅力を高めていくというのは今の行政の大きな方向性でもあり、その中で文化がどういう役割をするか、観光やほかの分野とどううまく連携してやっていくかは非常に大きな課題で、そういった部分の施策が今、弱いという部分は真摯に受け止め、次の方針に向けて、しっかり考えていきたい。</p> <p>今の生活文化というイメージでは、スカーレットは滋賀の文化をしっかりと伝えていると思う。だから、今の子供たちにも、滋賀に根づいた文化として陶芸があるのだということがわかる。</p> <p>滋賀の外に住んでいる人たちからしたら、滋賀はすごい土地だなというイメージをスカーレットだけでも、あるいはまた、滋賀出身の有名な芸能人とか、そういう方が、滋賀にまた戻ってきていろんなことをされている。</p> <p>そういう部分からすると、何か、ここでやっていること自体が、小さい。広くとらえてやっているけど、具体的には成果としては、小さいような気がする。アピールする方法を考えるというのも重要じゃないかと思う。</p>
<p>部会長</p>	<p>ワークショップ等では信楽をテーマにしたワークショップも施策の中にある。</p>
<p>委員</p>	<p>政策的に考えるならば、通常、ミッション、ビジョン、戦略、戦術というふうに分けて考えて、それらは首尾一貫していないといけない。(基本方針の冊子) 18 ページの上、これはビジョンで、19 ページがミッションであろう。</p> <p>そのビジョン・ミッションと戦術までの間に、不一致が起こっているということだと思う。その不一致の一例が生活文化ということだと思う。次の基本方針策定に向けてこの委員会から申し上げてはどうか。</p>
<p>委員</p>	<p>この成果の中で、ジャンルとして見づらい。例えば美術分野、陶芸だったらこういう流れがあって人材育成ができて、舞台音楽だったらこれだけの充実している、ただ演劇だとこれだけまだ足りないというのが、分野ごとにはっきりと道筋が見えるともっと力入れたいとか、このジャンルはもっと地域の方がプッシュしているから頑張ってもらいたいというのが分かれば、具体的に言いやすいのではないか。</p> <p>実際に具体的に、地域で活動している人が話しているようなことや、このジャンルだったらこういう人がいるというように、ジャンルで道筋が分けられると、とても話がしやすいのではないか、この次世代育成だったら何をやっているというのがわかりやすい。</p>

<p>議題 (2) その他</p> <p>都道府県における未来の文化の担い手の育成への取組に関する調査について</p>	
委員	<p>数量的なまとめというか、どんなことをやっていることが他府県で多かったということだが、他府県でも次世代育成の調査をしているのか。滋賀県が最初なのか。要は、他府県を調べて、自分のところと、目的としたらやっぱり比較するか、あるいはよそのいい点を取り入れようとしているか、そういうことだと思う。</p>
事務局	<p>他府県がされているかどうかという正確なところまで把握しているわけではないが、当然他府県がそういった調査をされようと思うと、滋賀県のほうにも照会が来ると思うので、そういったことから申し上げると、ないのかなと思う。</p>
委員	<p>滋賀県のほうが進んでいるんですね。これだけ文化に力を入れているのは、滋賀県の特徴だと思っている。そうすると、これで、数値的なまとめがあったけど、光るものが見つかったかどうかをお聞きしたい。</p> <p>他府県でこんなことでやっている。これは滋賀県では気がつかなかったな、せっかく調べたのだから、きらりと光るものを見つけるのが文化の推進につながると思うので、そういうものがあればお聞きしたい。</p>
事務局	<p>若手のアーティストに向けて、例えば海外派遣、海外留学の機会を与えるといった国の事業があるかと思うが、例えば、栃木県の取組では、海外留学の機会を与えるといったことをされており、栃木県ではだいぶポイントを絞って若手育成をされているような印象を受ける。</p> <p>ほかにも他府県では滋賀県の取り組みとは違ったいろんなところに重点を置かれている。劇団を育てて、いろんなところへアーティストを派遣しているといった、兵庫県などのような取り組みをされているところもあり、育成の方法にも違いがあるというのは取りまとめをしていて感じたところ。</p>
委員	<p>お金のかけ方がこれではわからないので、賞金を出すとかいうのは具体的なお金の話や、留学させるという国の話もお金の話。だから滋賀県として、お金を使うのに、過去はびわ湖ホールや美術館という箱物でお金を使うのはあったが、もっとソフトな部分で、人材育成という部分からも全く、お金が足りないというのを感じられているのではないか。福祉だったらすぐお金が来るけど、文化と言うとお金が来ないと、そんなイメージがある。</p>
事務局	<p>限られた財源で、どういう組み合わせでどう事業をやっていくと1番県民の皆さんにベストな施策になるかというのは当然、県全体の全体最適を考えて、当然予算は配分をしているので、文化だけが突出して予算をつけていただけというわけに</p>

委員	<p>はいかないが、そういった中でも施策の重要性や効果をしっかりと訴え、必要な予算を確保できるように我々としては努力をしていかないといけないと思っており、決して文化だからお金がつきにくいということもないので、しっかりと取り組んでいきたい。</p> <p>せっかくアンケートをやるのなら、自分のポジションをはっきりさせたほうがよい。滋賀県は他県に比べてどこが優れていてどこが劣っているかっていうのははっきりさせる。それを次の方針への参考にすればよいと思う。</p> <p>また、自主財源でやっているものと、外部資金でやっているものを分ける必要もある。</p>
委員	<p>すばらしいまとめで、他県でこんなふう活動されているというのが、一目でわかり、こんなことも滋賀県でやったらいいのに、ということも多々あり、参考にさせていただく。</p> <p>あとは、都会のような財源が豊富にある県と滋賀県を同じように比べても仕方がないと思うし、例えば滋賀県とよく似た、ちょっと地方都市で大阪京都の町の隣県で、例えば東京だったらちょっと近くのベッドタウンの県のような参考になる県というのが多々あると思う。</p> <p>そういったところの事情や、どのような思いを持って取り組まれているかという滋賀県と似通った県の話や、どういった取り組みをされているのかということも、掘り下げて見てみるというのもすごく参考になるのではないかな。東京都はずごいなと思いつつ見ているが、それは参考にできなくて、やっぱり滋賀県と似通ったようなところというのが、今後滋賀県も取り組んでいってもらいたいと思うべきところではないかと思う。よりこれを深めていっていただきたい。</p>
委員	<p>調査をされて、そこから何を得ましたか、そしてそれをどのように生かそうと思われましたか、ということ。これこれをやりました、数はこれです、で終わっている。そこからさらに、反応はどうで、今後どうしていきたいのかとか、この調査とか結果とか、実践してみてどうだったかといったところが見えてこないで、そこが欲しいのだと思う。私たちが集まっているのも、そこをいろいろ話し合ったりとか考えたり議論したりということなのだと思う。</p>
委員	<p>他の文化審議会も評価部会もある。我々が議論するのはその中で一部の人材育成だけである。他の部会との情報の交換もあると、それぞれの部会が役立つと思う。</p>
部会長	<p>今日は、成果をどう表すか測るかみたいな話題が多かったが、そういったことは活発に評価部会のほうで議論されていることなのだろうと思う。</p>

事務局	<p>毎年度の施策についてはそういった議論をしていただいております、同じようにこの方針の今の時点での取りまとめを来月に予定している部会で同じような議論をしていただきたいと思います。その中でこの施策については、今日の部会でこういう御意見をいただきましたというのは報告させていただきながら、議論いただくということになる。その評価部会の議論をもってまた審議会を2月下旬あたりに予定をしているが、そこで報告させていただきながらさらに議論を深めていただくという進め方をしたいと思っている。</p>
-----	---

以上